

# 源平「周防国合戦」と

## その史跡

1月8日にスタートする今年のNHK大河ドラマは『平清盛』です。主役の松山ケンイチさん扮する平清盛が、瀬戸内の海を舞台に力強く生き、新しい時代を作り上げていきます。今から900年前に、新しい国造りを目指した革命児・平清盛の生き方がドラマでどのように描かれるのか楽しみですね。

そこでもう一つ、このドラマで楽しみなのは、祝島の船大工・新庄和幸さんが造った撮影用の木造船の雄姿です。二隻の木造船は、すでに予告編などに登場していますので、ぜひテレビやインターネットでチェックしてみてください。

※NHK大河ドラマ Webサイト  
<http://www9.nhk.or.jp/kiyomori/>



建造中の木造船（昨年夏撮影）



予告編に登場（左右の二隻です）

さて、平安時代末期、平家が栄華を誇り、そして、源氏に敗れて滅亡した瀬戸内海。最後の決戦となった「壇之浦の戦い」は有名ですが、その直前に室津半島周辺で「周防国合戦」が繰り広げられたという説があり、その史跡も数多く残っています。今回は、上関町周辺に残された源平合戦にゆかりの史跡を特集して紹介します。

**<上関町、柳井市>**  
**皇座山（おうざさん）**  
 池の浦の戦いで破れた平家の一部は安徳天皇を奉じて皇座山を越え、赤間関へ落ちのびた。このとき安徳天皇が山頂でひと休みをされたため、皇の座する山「皇座山」と言われるようになった。また舟を引き上げ、かついで山を越えた船越という地名も残されている。

**<柳井市>**  
**佐藤継信・忠信の供養塔**  
 柳井の忠信地区で2005年に発見された。佐藤継信・忠信の兄弟は源義経の家臣で、奥州にいた義経が源頼朝の陣に赴く際、藤原秀衡の命により兄弟で義経に随行した。

**<柳井市・阿月>**  
**勝負ヶ迫**  
 現在の阿月変電所付近一帯で勝負を決した大合戦があったと言われている。この戦いで敗れた平家は相の浦と池の浦の二手に分かれ、皇座山を越えて落ちのびたとされている。付近からは大量の刀剣や鎧かぶとが出土されている。  
**陣屋**  
 与浦遺跡の近くに平家の陣屋跡が残っている。

**<平生町・宇佐木>**  
**宇佐那木上七遠隆（こうしちとうたか）居館跡**  
 大変な食糧不足に悩まされていた源氏の軍勢に兵糧米を与えて窮地を救ったとされる大富豪遠隆の居館跡が残る。

**<周防大島町>**  
**島末（しまずえ）城跡**  
 源平合戦の終盤（1184年）に平知盛（とももり）が決戦を迎える覚悟で周防大島に築いた山城。

**<上関町・祝島>**  
**平家塚**  
 平景清（かげきよ）の首塚といわれる石積塚が残っている。

**<柳井市・相の浦>**  
**門脇（かどわき）家**  
 平家一門の武将・平教盛（のりもり）の子孫の邸宅。防衛のために築かれたとされる、特徴のある石壁が残る。  
 平教盛は平清盛の異母弟で、保元の乱、平治の乱で兄の清盛に従って戦った。邸宅が六波羅の総門にあったことから「門脇殿」と通称されていた。

**<上関町・大津>**  
**矢櫃（やびつ）神社**  
 千葉山（せんばやま）東面中腹に建てられ、この地から出土した平家の弓矢などが祀られていた。現在は場所が移されている。  
**平家塚**  
 平家の武将や武士たちの墓が残っている。

**<柳井市・平郡島>**  
 12世紀末に紀伊国早田の城主・鈴木氏の一派が宇治川の戦いに敗れた源義仲の遺児「平栗丸（平群丸・へぐりまる）」を連れて島に住み着いたのが島の名の由来と伝えられている。

**<柳井市・池の浦>**  
 当時、池の浦には大きな池があり、平家がこの池に船を乗り入れて隠れていたが、帆柱の上のカモメの鳴き声によって、源氏の軍勢に発見され、大勢の戦死者を出したとされている。  
**平家神社**  
 安徳天皇を祀っている。平家大明神と称し、平家の霊を鎮めた。現在は池の浦神社と呼ばれている。  
**池田家**  
 平家神社の守護役を務めており、平家ゆかりの石垣が残る。  
**平家坂**  
 この急斜面を越えて、平家が大津方面に逃げのびたと言われている。